第二回　海を学ぼうスクール in 港区
～海と日本 PROJECT～

実施報告書

主催：　LAB to CLASS プロジェクト

特定非営利活動法人　海の環境教育 NPO bridge
〒108−0073 東京都港区三田 3-2-21　ローランドミューズ 203
MAIL:　info@npo-bridge.org
URL：http://www.npo-bridge.org
海洋学習教材サイト URL:　https://lab2c.net/

実施概要・実施結果

実　施　概　要

■名　称：海を学ぼうスクール in 港区　～海と日本 PROJECT～
■日　程：2019 年 9 月 7 日（土）
■時　間：＜午前の部＞　10：00～12：30
　　＜午後の部＞　14：00～17：00
■場　所：港区立エコプラザ　（東京都港区浜松町）
■対象者：＜午前の部＞　小学生
　　＜午後の部＞　大人
■参加費：無料　（要事前予約）
■公式 HP: https://npo-bridge.org
■主　催：LAB to CLASS プロジェクト（特非　海の環境教育 NPO　bridge）
　　※本イベントは、海と日本 PROJECT（日本財団）の一環で実施しました
■共　催：港区立エコプラザ
■協　力：北里大学海洋生命科学部，未来教育 confeito，
　　海辺の環境教育フォーラム，一般社団法人 JEAN
■後　援：公益社団法人日本環境教育フォーラム，

実　施　実　績

	参加者数
【午前の部】	小学生 54 名
【午後の部】	大人　29 名
総合計	83 名

実施スケジュール

◆10：00～12：30　＜午前の部＞　海の生きものKIDSワークショップ

・全体アイスブレイク
・グループ毎に３つの体験
　　〇もっと知りたい！イルカのふしぎ
　　〇もっと知りたい！サンゴのふしぎ
　　〇もっと知りたい！海の生きもの
・全体まとめ

◆9：00～17：00　展示コーナー＜もっと知りたい！海の生きもの＞

〇LAB to CLASS教材展示エリア
　海洋学習教材LAB to CLASSの一部を展示

〇北里大学海洋生命科学部アクアリウムラボの学生によるミニ水族館

〇海の生きもの写真展示
　協力：城ヶ崎インディーズ 矢北拓也氏／ネイチャーガイド風の道　人見道夫氏／
　　エコツアーふくみみ

◆14：00～17：00　＜午後の部＞

〇海×先生～「自ら学ぶ力」を引き出す教育デザインとは

海の生きものkidsワークショップ

全体進行：川端　潮音（海の環境教育NPO bridge）
ファシリテーター
　【イルカのふしぎ】人見道夫（ネイチャーガイド　風の道）
　【サンゴのふしぎ】高橋麻美（科学コミュニケーター）
　【海の生きもの】川端潮音（海の環境教育NPObridge），寺西聡子（ディスカバリーブルー）
参加者：小学生　54名　（保護者同伴あり）
ねらい：
（1）さまざまな海の生きものの不思議に触れ,「もっと知りたい！」と思うようになること。
（2）「海と自分とのつながり」を感じ，さまざまな海に関する課題を自分ごととして受け止めるようになること
内　容：
　まずは全体のアイスブレイクとして海のスライドを見ながらさまざまな海の世界を想像しました。

　次に，３つのグループ（低学年，中学年，高学年）に分かれ，「イルカのふしぎ」「サンゴのふしぎ」「海の生きもの」の各コーナーを順番に回りました。

■イルカのふしぎ

《実物大のイルカをつくろう！》・・・グループ毎にプラスチックシートで作ったイルカの胴体（日本沿岸にいるミナミハンドウイルカの実物大）に、背びれ・尾びれ・胸びれ・眼・噴気孔などを、できるだけ正しい位置に付けるというワークを実施。保護者の皆さまにも協力していいただき，実物大のイルカを作りました。参加者は，その大きさに驚いたり，知っているようで知らなかったヒレの付き方（魚類との違い）などを確認していきました。そして最後は､｢イルカはどんなものを食べるの？｣など､イルカの暮らしへと興味を誘いました。

■サンゴのふしぎ

《サンゴ礁ジグソーパズル》・・・サンゴ礁の海を描いた大型のジグソーパズルに挑戦し，楽しみながら“サンゴ礁の全体像”を掴み、描かれている個々の生きものについての知識も高めました。

《サンゴ礁パネルシアター》・・・一般にはあまり知られていないサンゴの生態について、パネルシアターを使って解説しました。サンゴ礁に対し“多くの生物が棲むきれいな海”というイメージは持っていても，サンゴが動物であることを初めて知ったという子も多く、“生

きものとしてのサンゴ”について新しい発見があったようです。なかには「サンゴに雌と雄はあるの？」という鋭い質問をする子もいました。

■もっと知りたい！海の生きもの

《海の生きもの，椅子取りゲーム》・・・ “海の生きものカード”を使って、イワシ・カニ・二枚貝など身近な生きものの特徴を学びました。最初に、泳ぐもの・海底にいるもの・海に浮かぶもの・殻があるものなど、多様な生態や形態について学んだ後、フルーツバスケット（椅子取りゲーム）を実施。植物プランクトンや動物プランクトンなど、初めて知る生きものもあり、「どこにいるんだろう？」「なんで目に見えないんだろう？」などと想像を膨らませながら、楽しく生きものの知識を高めていきました。そして最後は，それぞれの生きものはどんな場所に暮らしているのかを考えながら、海をイメージしたブルーシートに生きものカードを並べて終了。これらの一連のゲームのなかで、海のなかには多種多様な生きものがいて，それぞれがつながっていることも、楽しみながら学びました。

３つのコーナーを体験した後は，３グループが一斉に食物連鎖をテーマとした《餌の餌の餌は何！？》を実施。「何かを食べてエネルギーを得る」という生きものの根源を通して、生きもの同士が繋がっていることを確認し，そしてその繋がりのなかには私たち人間もいることをみんなで共有しました。海のなかは、人間が暮らすことのできないもうひとつの世界。このワークショップを通し、その広がりと面白さ、さらに“私たちの暮らしとの繋がり”を知り、「本物の海に行きたい！」と思う子どもたちが増えたことを切に願います。

海×先生　～「自ら学ぶ力」を引き出す教育デザインとは～

ファシリテーター：川嶋直氏（公益社団法人 日本環境教育フォーラム理事長）
ゲスト講師：中村泰之氏（世田谷区立世田谷小学校校長）
進行：川端潮音（特定非営利活動法人 海の環境教育 NPO bridge）
参加者：大人（海洋学習に関心のある教員・指導者ほか）　29 名
実施概要：

１）事例紹介

「さまざまな海の環境問題を子ども達に伝えるよりも前に，海の素晴らしさ・大切さを伝えたい。海が素敵で素晴らしいところとわかれば，守りたいという気持ちが生まれる」という思いの下，海と触れ合う“体験”を重視してきたという中村泰之氏が、東京都三宅島で実施していた“ふるさと学習”や、海を教育の場として活用していた『三宅島サマースクール』の事例を紹介。中村先生の立場が「教える」ではなく、常に生徒たちの興味関心を「引き出す」立場にあり、生徒たちが自主的に学ぶ姿がとても印象的でした。

２）海洋学習教材 LAB to CLASS 体験

LAB to CLASS の教材のなかから，海の環境の構成要素とつながりを描いた《サンゴ礁ジグソーパズル》《干潟のジグソーパズル》、食物連鎖をテーマとした《餌の餌の餌は何！？》を体験していただきました。

LAB to CLASS 教材は，海に行かなくても“想像力を駆使し、体を動かして、海のことを楽しく学び，海への興味を誘発し，海の環境を考えるきっかけをつくる”ことを目的に制作・公開している教材です。海での直接体験ができなくても，座学では得られない効果的な学びの場が作れることを、実際の体験を通して理解していただきました。教材の細部に込められた工夫やテーマ、対象学年による使い分けのコツなども解説し，それぞれの教育現場に則した使い方を考えていただくヒントを提示させていただきました。

３）「伝える」と「伝わる」の違い：KP 法(紙芝居プレゼンテーション)講義

川嶋直氏による講義は、「伝わる」ことに焦点を当てた KP 法(紙芝居プレゼンテーション)を用いて「伝える」と「伝わる」の違い、さらに「教育」の語源 educe（education の動詞）の意味（引き出す）をテーマに行われました。個人の主体性を養うためには、能力・やる気・個性・元気を「引き出す」教師の立ち位置が重要である…という話に新たな教育の流れを感じました。

そのうえで行われた「自ら学ぶ力を引き出す教育デザイン」の周辺キーワードである、アクティブラーニングやファシリテーター型教員、持続可能な社会、SDGs、ESD についての解説は、参加者一人一人が自身の教育スタイルについて振り返る時間となったように思います。

最後は、「気候変動による異常気象をはじめ、人為的な自然環境破壊の影響が明らかであるからこそ、今私たちが取り組むべき教育は、各個人の主体性を育む、自ら学び行動できる人を育てるものであるべきではないか」という問いで締めくくられました。

４）えんたくんミーティング

ここまでにインプットしたことを考え、感じたことを共有する時間です。段ボールで作られた“円卓”を４～５人で囲んで座り，「自ら学ぶ力を引き出す教育デザインとは」というテーマで自由に意見交換を行いました。ルールは３つ＜よく聴こう・短く話そう・言葉を書こう＞。

今回の参加者は教員の他、企業や民間団体・NPO で活動している方など多彩な顔ぶれが揃い，さまざまな立場から多様な考え方が出され、教育の課題や可能性について活発に話されました。

５）ハーベスト：まとめ

今回のワークショップで「気づいたこと」「再認識したこと」「新たな疑問」などを，参加者それぞれが紙に書いて発表し，ふりかえりを行いました。

＊今回のワークショップでは『自ら学ぶ力を引き出す教育デザイン』を参加者それぞれが考えていくとともに、さまざまな教育手法（フィールドでの直接体験，教材を用いた室内型体験活動，KP 法，えんたくんミーティングなど）があることも実際に体験していただきました。海洋学習においても，今後は「どのように伝えるか」が大事だということを再認識した時間でした。参加者それぞれの課題が見つかる良い機会になったと思います。

【展示】もっと知りたい！海の生きもの

●LAB to CLASS 教材展示

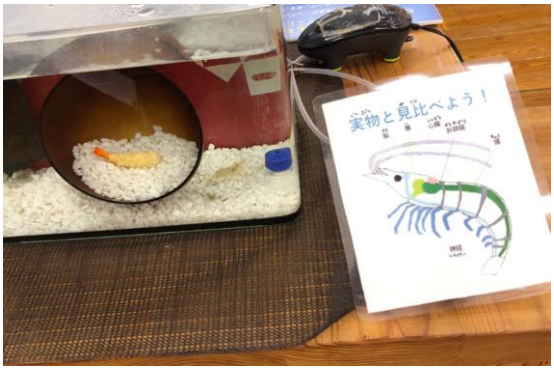
WEB サイトから無料ダウンロードできる《海洋学習教材 LAB to CLASS》の各種教材をより深く知っていただき、多様な活動場所（教育現場）での活用を推進することを目的に、代表的な教材の展示を行いました。

（９月３日～７日／５日間）

●ミニ水族館

北里大学アクアリウムラボの学生による企画。８種類の水槽と工夫を凝らしたパネルを展示し，エビやヒトデなど身近な海の生物の形態や、不思議な生態などを紹介しました。

（９月５日～７日／３日間）



参加者の声（アンケート結果）

●海の生きものKIDSワークショップ／　子ども感想　（52枚）　　一部抜粋

・プランクトンについてはじめてしりました（１年生）
・イルカを作るのが楽しかった（１年生）
・イルカの大人の大きさが知れて，サンゴを食べる魚もいるなど，いろいろなことが知れておもしろかったです（４年生）
・オニヒトデがサンゴを食べることを知って驚いた（４年生）
・海のせいぶつが太陽でいきているなんて思わなかった（３年生）
・生きものがどこにすんでいるかが知れてよかった（３年生）
・マグロはおよいでいないと死んでしまうんだとおどろいた。海にいってもぐって魚をみにいきたい（５年生）
・海のことを知って，ぜんぶたいようのエネルギーでできていることがわかりました。（３年生）
・サンゴが動物だということを知った（２年生）
・色々な遊び方で楽しく学べた（５年生）
・いろんなつながりがあることがわかった（３年生）
・イルカを作って，大きいなとおどろきました（２年生）
・サンゴパズルが楽しかった（１年生）
・太陽がないと人間も生きられないんだなとわかりました（２年生）
・海や海の生きものは自分たちまでつながっていて，海を大切にしようと思った（６年生）

●海の生きものKIDSワークショップ／　保護者アンケート（38枚）　一部抜粋

１）「プログラム内容」の満足度（５段階）

５（満足）	４（やや満足）	３（普通）	２（やや不満足）	１（不満足）
１６人	１８人	４人	０人	０人

２）海を学ぼうスクールを，親しい友人や知人にどの程度おすすめしたいと思いますか？
（１０段階）　１０（勧める可能性が非常に高い）～０（勧める可能性なし）

１０	９	８	７	６	５	４～０
７人	０人	１３人	１１人	４人	３人	０人

３）自由記述欄

・海に興味を持つきっかけとしては良い。フルーツバスケットの魚版は勉強になって良い。
・学校では学べない知識がたくさん増える。（楽しんで知ることができる）
・最後のカードゲームの楽しみ方は色々工夫ができそうですね。
・海のことを知ることができ興味を広げる良い機会でした。
　実際に海に行って自然を学ぶ機会があればぜひ参加したい。

・夏休みに子どもが海で経験したことをいかすことのできる内容でした。更に興味が深まったと感じました。また，他のお子さん方のたくさんの知識もよい刺激となったと感じています。
・海に興味を持っている子どもだけでなく，導入としてわかりやすく，あらたに興味を抱きやすいと感じた。
・身近に（きれいな）海がないので，良い機会。
・実物大のイルカづくりが面白かった。（複数あり）
・参加型で進めてくれるので子どもも飽きないようでした。
・イルカを作る，海の生きものの特徴を使ってのフルーツバスケットが考えながら楽しめてとても良かった。
・ワークショップ内容はとても面白かったので，小学校で似たような形でやっていただけたらうれしいなと思いました。
・講師の方々がとても熱心に子どもたちと接していたのが印象的でした。
・子どもたちがどんどん発言するような内容で楽しそうだった。参加型で面白い取り組みだった。
・子どもが楽しめれば良いと思っていたけど，大人も楽しめたので参加できて本当に良かった。進行や講義がスムーズで聞きやすかった。
・チームワークを学べた。

＜改善点＞
・夏休み中に開催し，自由研究の課題に出来たら良い。
・夏休み前か夏休み中の開催だとなおよかった。
・スペースの関係上，講師の先生方の声が聞こえづらい時があった。（複数あり）
・テーマに対し，期待以上のものではなかった。子どもが新しく学べた事が少なかった。
・態度が悪い子どもを注意してほしかった。
・ワークをする前に，その目的を子どもに伝えて欲しかった。
・イルカづくりはもう少し時間があれば。作ることに集中しすぎて，イルカについて知ることが少なかったように思う。
・３つのプログラムがやや足早で，講師と子どもとの会話が少し少ないように思えました。でも教材は子どもの気持ちをひきつけるのに十分で，色味や素材も楽しめたのではないかと思います。
・学校によって土曜は授業があるので日曜の方が良い（複数あり）
・全体にだらだらした雰囲気になったときがあるのが残念。大人数で長時間は難しいのでは。
・座学の要素が強すぎる。
・海で起きている問題を全面に出しても良いのでは。
・もっとショッキングな現実を，画像や動画で見せてやって欲しかった。
・椅子の移動は１回で良かった。

●海×先生　ワークショップ／　参加者アンケートより　※一部抜粋　　（15 枚）

・子ども達に人が海をダメにしていることを知らせる前に，愛する体験をさせることが大切というところにはっとさせられました。

・海洋教育をテーマに集まった参加者の方々との情報交換も面白かった。
・いろいろな活動の話や考えを聞けて，えんたくん面白かった。
・ゲスト講師（中村先生）の事例はとても興味深かった。えんたくんミーティングは多様な意見が聞けた。
・小学校のプロジェクト型学習でできそうな実践ヒントを得に来ました。「好きだから守りたい」と思える子を育てようと思います。
・時間が短いと感じてしまうほど充実の内容でした。
・日頃考えていることが間違っていないと思えた。持ち帰って，バージョンを変えて出来ることを見つけられた。
・教育について考えたり，普段　教育に携わる方とコミュニケーションができ楽しかった。気付きがたくさんあった。日常と自然体験,,，実は日常にもたくさんの自然体験する機会がたくさんある，大人も変わっていかなくては。
・教育は「引き出すこと」を知りました。大きな収穫です。好きなことを伝えるために学ぶという姿勢を大事にしたいと思うきっかけになりました。
・楽しい体験ができた。10/1 から，〇〇で教材使います。